

# サギタリウスチャレンジ チャレンジ部門

## 結果報告書

タイトル	ボランティアで地域活性化	
代表者	学生証番号	氏名
	011134	大村 泰人
企画概要	<p>本学生が多く居住していて、日頃からよく利用している「御菌橋商店街」とその周辺を拠点に、商店街とその周辺の街をどのように活性化していけば良いのかについて、経営学部生として、大学で学んだ理論を実践した。具体的には、JICAの標準規格であるPCMや非営利組織でよく使われているP.F.ドラッカーが提唱した自己評価手法などを用いてプロジェクト管理をした。そして、本学生並びに地域経済、地域住民と共に地域活性化に取り組んだ。</p>	
結果報告	<p>御菌橋商店街と上賀茂地域の住民、京都産業大学の多くの学生との交流が図れた。御菌橋商店街とその周辺地域の清掃活動・ボランティア活動や商店街のイベントへ参加や提言、協力することが出来た。</p> <p>御菌橋商店街とその周辺地域の人々やお年寄りとの交流会「ふれあいの場」（お茶会など）を設けることが出来た。これは、参加者の間では、好評であった。</p> <p>情報収集のため、関西界隈の商店街へ出向き、商店街調査（インタビューや商店街の写真撮影等）を15ヶ所程度行った。調査結果をもとに、御菌橋商店街の活性化・相乗効果を図るため、提言を行った。</p> <p>また、私たち主催のお茶会では、御菌橋商店街で毎日、空き店舗（コミュニティーサロン）で焼いておられるワッフルのレシピを事前に教えて頂き、来場者にふるまった。企画をより多くの方に知ってもらい、より良くするために、自主的に行った神山祭の部展では、これまでの活動内容を文字・写真・展示で紹介をし、比較的好評だった。市議会議員の方や、他大学の大学生にも来ていただき、今後の活動に期待する、何かあれば支援するなどの言葉をいただいた。</p>	
感想	<p>経営学部生として、理論を実践することを重視した。このことを意識しながら、実際に経験することが出来たことは、とても有意義であった。</p> <p>学生が主体的に考案した企画案を実際に商店街の方の理解を得て、連携して行うということは、予想以上に難しいことがわかった。</p> <p>企画に対する役割分担の明確化、効果的なチーム運営、綿密な計画性の必要性を実感した。今後、企画を進める上で、一人一人が責任感と自覚を持ち、今後の活動の計画、実行に取り組んでいく必要性や意義を再確認出来た。</p> <p>社会的に産学連携、地域活性化の風潮が高まる中、学生目線で行ったこの企画は、ある一定のモデルを示せたと自負している。</p>	